

# 「なぜ今、市民社会と科学技術政策について再考が必要なのか —原子力・宇宙政策が私たちに問いかけること—」

私たちにとって原子力技術や宇宙開発は無関係でしょうか？ 平和利用と軍事利用は区別できるのでしょうか？

緊迫する北朝鮮のミサイル・核実験問題は、私たちにこれらの問いを突きつけています。

シンポジウムでは新しい研究所 (略称 POLARIS) の紹介に加え、原子力・宇宙の技術や政策をテーマに私たちの対峙の仕方考えます。

日時：2017年 **10月6日(金) 17:10** ~ 18:50 (予定) ※開場：16:50

申込不要 / 入場無料 (定員 120 名) 一般参加可能

会場：明治大学和泉キャンパス図書館ホール

〒168-8555 東京都杉並区永福 1-9-1 明治大学和泉キャンパス内

京王線 / 井の頭線「明大前駅」下車 改札口を出て徒歩約 5 分  
※お車でのご来場はご遠慮ください。



・講演

## 「市民社会と科学技術政策の再考の必要性

### —研究所の紹介として—

勝田 忠広

明治大学法学部、明治大学 POLARIS 代表



・特別講演

## —2つの巨大科学技術政策が私たちに問いかけること—

### 「原子力技術・政策の現状と課題」

鈴木 達治郎

長崎大学 RECNA センター長、日本パグウォッシュ会議代表



### 「宇宙技術・政策の現状と課題」

金岡 充晃

CSP ジャパン 航空宇宙政策・産業グループ シニアアナリスト



・パネルディスカッション

参加者からのリアルタイムのアンケート結果を使用して幾つかの議論を行います。

